

米百俵

小林虎三郎の精神

山本有三「米百俵」から

この百俵は、今でこそただの百俵だが、後年には一百万俵になるか、百万俵になるかはかり知れないものがある。いや、米だわらなどでは、見つめられない尊いものになるのだ。その日ぐらしては、長岡は立ちあがれない。あたらしい日本はうまれないぞ。

米百俵の故事を訪ねて

長岡市内にある「米百俵」にまつわる史跡をご紹介します。

■米百俵の群像

山本有三の戯曲「米百俵」を東京・歌舞伎座で上演したときの一場面をブロンズ像で再現したものです。平成3年10月にふるさと創生1億円事業で建立しました。「米を分けろ」と迫る人びとに虎三郎が切々と説くこのシーンは、人びとの心を打ちます。



▲米百俵の群像(千秋が原ふるさとの森)



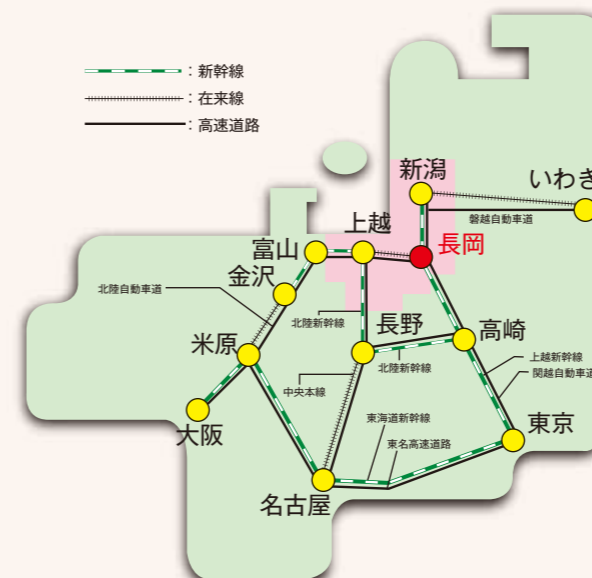
▲病翁碑(悠久山・蒼柴神社)

■病翁(小林虎三郎)碑

昭和4年に没後50年を記念し、士族の代表だった松下鉄蔵らが寄付を集め建立しました。碑文には「学校を敗残窮餓の中に興し、以て人材を養成し、長岡をして今日の盛有らしむ」とあり、「食われぬから教育するのだ」という精神を伝えたい思いが込められています。

このほか国漢学校跡に建てられた米百俵之碑や小林家の菩提寺の興国寺、小林虎三郎の遺品などを展示した長岡市郷土史料館があります。また、国漢学校にまつわる資料を展示した長岡市立阪之上小学校伝統館や新潟県立長岡高等学校記念資料館があります。

■長岡市位置図



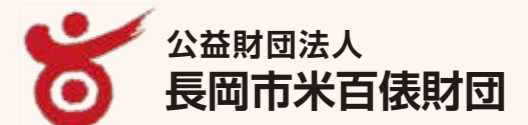
主な交通アクセス

高速道路のご利用

- 東京→長岡 約2時間30分
- 新潟→長岡 約40分
- 長野→長岡 約1時間30分
- 金沢→長岡 約3時間
- 大阪→長岡 約6時間40分

JRのご利用

- 東京→長岡 約1時間30分
- 新潟→長岡 約20分
- 長野→長岡 約1時間40分
- 金沢→長岡 約2時間20分
- 大阪→長岡 約4時間30分



公益財団法人
長岡市米百俵財団

〒940-0084 新潟県長岡市幸町2-1-1長岡市教育委員会
教育総務課内 TEL(0258)39-2238、FAX(0258)39-2271
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/cate12/kome100zaidan/>

米百俵の精神はいついつに生まれました！

戊辰戦争に敗れ、焦土と化した長岡のまちに、三根山藩（現在の新潟県新潟市西蒲区峰岡）から送られてきた米百俵。大参事の小林虎三郎はその米を家中に分配せず、国漢学校設立の資金にあてた――。

平成十三年の小泉首相の所信表明演説で一躍全国的に有名になった「米百俵の精神」は、この米百俵の故事から生まれたものです。

作家山本有三の作品に戯曲「米百俵」があります。昭和十八年（一九四三）、新潮社から「米・百俵」として刊行され、大ベストセラーになりました。

山本有三が戯曲「米百俵」

を誕生させることになったのは、ふとしたことがきっかけでした。あるとき長岡出身のドイツ文学者の星野慎一から「食えないから学校を建てる」という長岡に

実際にあった話を聞いて、興味を持ったことからでした。

この「食えないから建てられた学校」が国漢学校でした。



▲小林虎三郎（1828～1877）

国漢学校の開校

越後長岡藩（七万四千石・譜代大

名牧野家）は、慶応四年（一八六八）の戊辰戦争の際、奥羽越列藩同盟に加わり、明治新政府軍に対抗。長岡は戦場となり、激しい戦いの末、長岡藩は敗れました。その結果、長岡城や城下はもろろん、周辺の村々のほとんどが焼失しました。このため人びとの生活は、三度の食事もままならないくらいに困窮し、ひっ迫しました。

そんななか小林虎三郎は「どんな苦境にあっても、教育をおろそかにできない」と主張。長岡藩は、明治二



▲国漢学校之図（「長岡懐旧雑誌」下）

年（一八六九）五月一日から、焼け残った長岡城下四郎丸村の昌福寺の本堂を仮校舎として、国漢学校を開校しました。

救援の米百俵が三根山藩から送られてきたのは、翌年五月頃でした。戯曲「米百俵」の一番の

見せ場は「米を分ける」と詰め寄る藩士らを前に、長岡藩の気風「常在戦場」の書幅を背にして、小林虎三郎が教育へ寄せる思いを熱く語るところです。

虎三郎は反対する藩士たちを説得し、米百俵を家中に分配せずに売って、その

代金を国漢学校の書籍や用具の購入にあてました。そして、明治三年六月十五日には、坂之上町に新校舎が完成しました。

小林虎三郎の精神

長岡藩士小林虎三郎は佐久間象山門下で、長州藩の吉田寅次郎（松陰）とともに二虎と称されました。象山は「事を天下に為す者は吉田松陰、我が子の教育を託すは小林虎三郎」とし、

教育者としての虎三郎の資質を高く評価しています。

虎三郎は教育論を安政六年（一八五九）春、「興学私議」にまとめています。そこで

「教養を広めて人材を育てる」という考えを述べています。人びとのくらしが豊かになるのも、国が富むのも、人民の教育が左右するといふものでした。

この虎三郎の想いを強く反映させた国漢学校は、日本や世界で通用する人間を

人びつりはまはすひつり

国漢学校自体は、明治三年十月の長岡藩廃藩で「分贖長岡小学校」となり、わずか二年あまりでその名は消えました。しかし、長岡にはその流れをくむ学校が数多く生まれました。

それらの学校の基本理念は「何事も基本は人。人づくりこそすべての根幹である」という教育を大切にすることを方針に、貫かれていました。

まさに、山本有三が戯曲「米百俵」の中に記した「国がおこるのも、ほろびるのも、町が栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある」という小林虎三郎の言葉に象徴



▲松竹大歌舞伎長岡特別公演「米百俵」
（昭和54年・長岡市立劇場）



▲小林虎三郎の著書類
上：『小学国史』、下右：『興学私議』（『求志洞遺稿』）、
下左：『翻刊 德国学校論略』

されるものでした。これらの学校は、近代日本の発展に貢献した長岡が全国に誇る人材を数多く輩出しました。

明治憲法の起草に尽力した法学博士の渡邊廉吉、日本人初の解剖学教授で人類学者の小金井良精、明治の代表的な洋画家の小山正太郎、東京帝国大学総長の小野塚喜平次、外交官で漢学者の堀口九萬一とその子で詩人の堀口大学、司法大臣の小原直、海軍の山本五

六元帥らです。小林虎三郎が遺した米百俵の精神がしっかりと長岡の人びとの間に引き継がれてきた証といえます。

昭和二十年八月一日、長岡は空襲によって再び廃墟となりました。人びとは不屈の精神と自立心で復興に取り組み、今日の長岡のまちの礎を築きました。このとき人びとが行動の指針としたのが、「人づくりはまちづくり」として受け継がれてきた米百俵の精神です。